出 張 報 告 書

下 関 市 議 会 議 長 殿　　平成２８年１０月３１日

職氏名	用　務
議　長　関　谷　　博 議　員　近　藤　栄次郎 議　員　福　田　幸　博 議　員　林　　真一郎 議　員　平　岡　泰　彦 議　員　菅　原　　明 議　員　木　本　暢　一 議　員　田　中　義　一 議　員　浦　岡　昌　博 議　員　安　岡　克　昌 議　員　小熊坂　孝　司 議　員　前　田　晋太郎 議　員　板　谷　　正 議　員　恵　良　健一郎 議　員　前　東　直　樹 議　員　酒　本　哲　也 局　長　田　邨　　昇 課長補佐　白　土　正　道	下関市議会と釜山広域市議会との友好親善の充実、強化を図るとともに、姉妹都市締結４０周年記念事業に参加すること。 あわせて、釜山広域市観光協会及び釜山文化財団を表敬訪問し、友好親善を図ること。
期　間	出張先
平成２８年１０月１７日から 平成２８年１０月１９日まで	大韓民国　釜山広域市

意見・調査事項

釜山広域市は人口約３５６万人の大韓民国第２の都市で、面積は本市よりやや広い７６６平方キロ、対馬海峡に面し、古くから朝鮮半島と日本とを結ぶ交通の要衝として栄えてきた港湾都市である。なお、行政区域として１５区及び１郡から構成されている。

１０月１７日（月）

●釜山広域市観光協会表敬訪問

釜山広域市観光協会は、釜山駅近くのチャイナタウンの一角に位置するビルの中にあり、１階は外国人を対象とした観光案内所となっている。

釜山広域市観光協会の李 泰燮（イ・テソプ）会長から歓迎の挨拶がなされた後、関谷議長から答礼の挨拶がなされ、その後、各議員が自己紹介を行った。

今回の訪韓団の中には、これまでに釜山広域市観光協会を訪問したことのある議員もおり、終始、和やかな雰囲気の中で歓談が行われた。

釜山広域市観光協会は、本市の観光コンベンション協会とも交流を行っているとのことで、李会長は冨永会長とも知己があるとのことであった。

【李会長(左)と関谷議長】

【李会長(左奥)を囲んでの歓談風景】

●釜山未来都市館・釜山国際交流展示館視察（釜山市庁舎内）

いずれの施設も釜山市庁舎の１階にある施設である。

未来都市館は、釜山の都市計画を基に、釜山の過去と現在、未来を一度に見ることができるように造られた最先端のマルチメディア展示館である。４Ｄ映像館では、メガネを着用することにより立体的な映像で近未来の釜山広域市を垣間見ることができ、説明も日本語バージョンが用意されていた。

国際交流展示館は、釜山広域市の姉妹都市を紹介するとともに、各都市の名産品等も展示しており、下関市のふくちょうちんも展示されていた。このほか、各都市の伝統衣装を着て、釜山広域市の名所等を背景に記念写真を撮るコーナーもあった。

【釜山未来都市館にて】

【釜山国際交流展示館にて】

●釜山広域市議会表敬訪問

釜山広域市議会側は、白 宗憲（ペク・ジョンホン）議長、皇甫 承希（ファンボ・スンヒ）経済文化委員会委員長、朴 星明（パク・スンミョン）経済文化委員会副委員長の３名が対応された。

釜山広域市議会の議会庁舎は、釜山広域市庁舎に隣接し、機械室を含め７階建てであり、別棟の４階建ての議員会館を含め、延床面積が１万７，５６７平米の規模である。

釜山広域市議会は、選挙区４２名、比例代表５名の計４７名の議員から構成されており、市議会事務処には事務処長を中心に約１１０人の職員が配属されている。

議長接見室にて、白議長から、下関市議会訪問団一行を歓迎する旨の挨拶がなされた後、関谷議長から、姉妹都市締結４０周年を迎え、釜山広域市議会及び釜山広域市の皆様方との真の交流を深め、その充実・強化を図ることを目的に、今回の友好訪韓団を組織し訪問させていただいたものであり、今日まで、関係各位のご努力により培われてきた友好親善の交流を大切にし、今後なお一層の両市の限りない友好基盤の充実に努力をしていく所存である旨の挨拶がなされた。

その後、歓談の中で、白議長が２０００年代のはじめに釜山青年会議所の会長をされていたことが話題になるなど、議員間の親交を深めた。

【関谷議長と白議長(右)】

【白議長･皇甫委員長･朴副委員長と訪問団】

表敬訪問終了後、議場の見学を行った。釜山広域市議会の議場には、議長席側の壁面に大型ディスプレイが、また議席にも可動式のディスプレイが設置されており、さらに電子表決システムも導入済みであるとのことで、いわゆるＩＣＴ化がかなり進んでいる印象を受けた。なお、大型ディスプレイには「下関市議会　関谷博議長ご一行の釜山訪問を歓迎いたします。」と日本語で表示され、友好親善ムードに華を添えていた。

【釜山広域市議会 議場にて】

【壁面と議席に設置されたディスプレイ】

１０月１８日（火）

●釜山文化財団表敬訪問

釜山文化財団は、釜山広域市南区の廃校となった小学校の校舎内に本部が置かれている。

なお、釜山広域市は本市と同様に人口減少が進んでおり、財団本部が入る旧小学校も、周辺の人口減少に伴い廃校となったものであるとのことである。

建物は、築後約３０年経過したということであったが、きれいに改修されており、古さはまったく感じられなかった。また、前身が小学校の校舎であったことから、そのスペースを活用し、文化財団本部の事務所以外にも、芸術家のためのアトリエ、音楽の演奏やダンスの練習ができるような小ホールなどのスペースを備えるなど、いわゆるリノベーションを行っており、本市において進められている公共施設マネジメントの取り組みにも通ずる部分が見受けられた。

【釜山文化財団本部の入っている建物】

【芸術家のアトリエにて】

施設見学の後、釜山文化財団の黄 海淳（ファン・ヘスン）芸術振興本部長を表敬訪問し、あわせて財団の概要について説明を受けた。なお、前任の代表理事が１０月初旬に辞任されたため、急遽、芸術振興本部長の対応となったものである。

概要説明においては、文化財団の役割として、基礎芸術の振興、文化芸術の共有機会の拡大、文化芸術の創作基盤構築、文化芸術教育の活性化及び国際文化交流の協力強化がその主なものである旨が、また、運営する施設の中の１つには、朝鮮通信使歴史館もあることが明らかにされた。

平成２８年度の歳入歳出予算についても説明がなされ、歳入は約２８６億２，３００万ウォンで、このうち８３％の約２３６億６００万ウォンは市からの出捐金、委託金が占めているとのことであり。また、歳出も歳入と同額の約２８６億２，３００万ウォンで、このうち８６％の約２４６億２，２００万ウォンは事業費が占めているとのことであった。

【プロジェクターによる概要説明】

【関谷議長と黄芸術振興本部長（右）】

●朝鮮通信使歴史館視察

朝鮮通信使歴史館は釜山広域市の東区にあり、通信使が日本へ旅立つ前に航海の無事を祈願した子城台（チャソンデ）という、現在は公園となっている場所に位置しており、施設の管理運営が釜山文化財団に委託されている。

当該歴史館は、１６０７年から１８１１年まで１２回にわたって日本に派遣された通信使について、最先端のマルチメディア技術等を活用し、誰でも理解できるように作られた博物館で、最近は小中学生の団体での見学も増えているそうである。

展示は、３Ｄメガネを着用し、朝鮮通信使の歴史を立体的な映像により上映するもの（日本語バージョンあり）をはじめ、子どもの目線にも対応したものも見受けられた。

なお、朝鮮通信使に関して、先般、ユネスコ世界記憶遺産への登録を日韓両国の民間団体が共同で申請を行ったところであるが、韓国側の団体が釜山文化財団である。

【第１展示館にて(担当者からの概要説明)】

【第2展示館にて(左が通信使の乗った船の模型)】

●ヌリマルＡＰＥＣハウス視察

ヌリマルＡＰＥＣハウスは、釜山広域市の海雲台区に位置し、２００５年１１月に開催されたＡＰＥＣ首脳会議の会議場として建設された施設で、「ヌリ」は「世界」、「マル」は「頂上」という意味の純粋な韓国語であるとのことである。

【会議場入口付近】

【会議場内部】

●釜山市長表敬訪問、下関市・釜山広域市姉妹都市締結４０周年記念式典

下関市・釜山広域市姉妹都市締結４０周年記念式典に先立ち、関谷議長が中尾市長とともに、徐秉洙（ソ・ビョンス）釜山広域市長への表敬訪問を行った。

【徐市長(右端)と歓談する関谷議長】

【関谷議長と徐市長(右)】

記念式典の会場は、海雲台区にある海雲台グランドホテル２２階のスカイホールにおいて、両市から約１５０名が参加しての式典となった。

開会宣言後、中尾市長に名誉市民章が授与され、記念品の交換後、両市長、両市議会議長等から、これまでの両市の姉妹都市交流の歴史を振り返りつつ、今後の交流継続に期待する旨の祝辞が述べられた。

その後、記念公演として、下関市側からは海外で初となる上臈道中が、また釜山広域市側からは釜山市立公演団によるアリラン等をモチーフにしたダンスがそれぞれ披露された。

【祝辞を述べる関谷議長】

【白議長･徐市長･中尾市長･関谷議長(左から)】

【下関市議会訪問団及び下関市民訪問団と釜山広域市列席者一同】

【下関市の公演】

【釜山広域市の公演】

１０月１９日（水）

●洛東江河口エコセンター視察

洛東江河口エコセンターは釜山広域市の沙下区にあり、洛東江という韓国で一番長い川の河口の中州、乙淑島に建てられた施設である。周辺には湿地があり、渡り鳥を含む、野鳥の生息地になっているとのことで、当該施設は、洛東江河口の生態に関する資料及び鳥類や湿地生態のわかりやすい展示がなされ、小中高生はもちろん一般市民向けにも様々な自然学習プログラムが用意されていた。

建物の設計は、コンペにより当選した日本人の山下保博氏によるもので、建物の外観は「鳥の巣」をイメージしたデザインとなっているとのことであり、ガラス張りの部分にはバードセーバーと呼ばれる、野鳥の衝突防止用に、鷲や鷹など猛禽類をイメージしたステッカーが貼っているのが特徴的であった。

【洛東江エコセンター遠景】

【2階展示室にて(担当者からの概要説明)】

エコセンターから少し南に下った、河口探訪体験場も見学した。この付近は、以前、し尿の集積場があり、ここから船で公海へ運搬し、海洋投棄を行っていたとのことである。

【洛東江河口探訪体験場遠景】

【2階から南方を臨む】